

## 地域連携企画第4弾「平野をさぐる」

著者	内田 吉哉
雑誌名	NOCHS Occasional paper
巻	9
ページ	27-27
発行年	2009-06-30
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/2994">http://hdl.handle.net/10112/2994</a>

## 地域連携企画第4弾「平野をさぐる」

2008年10月26日（日） 大阪市平野区 杭全神社

大阪市平野区での地域連携企画開催は、2007年5月の「もめん博物館 in 平野」に続き2回目となる。「もめん博物館 in 平野」では、平野区で行なわれている町づくり活動「平野・町ぐるみ博物館」に「もめん博物館」というブースを出展する形で参加させていただいた。「平野の町づくりを考える会」の方がたに助言をいただきながら、いわば「内部からの視点」に立った企画であったといえる。対して地域連携企画第4弾「平野をさぐる」は、「外部からの視点」をコンセプトとした。その一つが来日後まもない留学生による写真コンテストとスピーチであり、もう一つが鼎談「杭全神社と平野のはなし」である。



留学生スピーチの様子

鼎談「杭全神社と平野のはなし」は、地元・平野に所縁の深い三人の先生を講師に迎えてお話をうかがった。一人は杭全神社宮司の藤江正謹氏、もう一人は平野法楽連歌に携わっておられる鶴崎裕雄先生（帝塚山学院大学名誉教授 / 当センター研究員）、そしてもう一人は、平野区にある高校に通学しておられた北川央先生（大阪城天守閣研究副主幹 / 当センター研究員）である。

三人の先生方に、講演ではなく鼎談という形でお願したのは、地元の人間ではない私たちの「平野に関する素朴な疑問」をより多く尋ねたかったことによる。先生方には、事前に打ち合わせをさせていただいた時に、学術的な議論ではなく平野をめぐる「よもやま話」を聞かせてほしいとお

願した。そうした談話の中こそ、現在に生きる文化遺産を知ることができると考えたためである。



満員の会場

この企画の開催にあたり、当初不安を感じていたのは、はたして地域の人びとに集まってもらえるだろうかという点であった。しかし当日の会場はほぼ満席となり、非常な盛況を呈した。この満席の会場は、杭全神社と地域との密接な繋がりを表すものである。あるいはこの盛況ぶりそのものが、杭全神社と平野をめぐる「生きた文化遺産」であるといえよう。



当日のポスター

(内田 吉哉)